カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

復活教書

もっと心を広く、鷹揚（おうよう）に

大司教 ヨセフ 髙見 三明

イエスは死者のうちからまことに復活されました。わたしたちの希望と喜びの源です。主イエスは、神様とわたしたちのきずなを新しい永遠のものにつくり直すために十字架上でご自分のいのちを与えて三日目に復活し、洗礼とみことばと聖体の秘跡を通していつもわたしたちと共にいて、わたしたちを生かしてくださっています。それは、わたしたちがこの世を去った後、主の復活のからだに似たものに変えられ、神の愛に包まれて永遠に生きるためなのです。

1. コロナ禍の中で 人間の小ささを思う

新型コロナウイルスが世界中に感染拡大し始めて1年以上になります。変異ウイルスも発生するなど、今のところまだその勢いは完全に抑えられていません。1万分の1ミリほどの超微小なものが粘膜などの細胞に付着して人体に感染し、重症化すると急性呼吸窮迫症候群や敗血症、多臓器不全を伴い、死に至らしめることもあるとされています。このウイルスは、人のいのちを奪い、普通の生活を狂わせ、経済、宗教、文化などの活動を停滞させています。最先端の医学も悪戦苦闘し、世界中の人々が不安と恐れに駆られながら防止に努めていますが、生きる気力ややる気をなくす人が少なくないように思われます。

このような中でわたしたちは、あらためて人間の無力と弱さ、度量の小ささと利己的な傾きを思い知らされています。聖書も人のいのちをしばしば草や虫にたとえています。

「（主は）わたしたちが塵にすぎないことを御心（みこころ）に留めておられる。人の生涯は草のよう。野の花のように咲く。風がその上に吹けば、消えうせ、生えていた所を知る者もなくなる。」（詩編103・14－16）

またイザヤは「地に住む者は虫けらに等しい」（イザヤ書40・22）と言い、ヨブの友人は「人間は蛆虫（うじむし）、人の子は虫けらにすぎない」（ヨブ記25・6）とまで言います。

これは、人間を軽視しているのではなく、そのありのままを述べており、人間はそれを常に深く自覚すべきだと諭しているのです。

その一方で、ある人は神にこう語り掛けています。

「あなたの天を、あなたの指の業をわたしは仰ぎます。…そのあなたが御心に留めてくださるとは、人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう、あなたが顧みてくださるとは。」（詩編8・4－5）実際、人間は神なしに存在することも生き続けることもできません。事実、互いを高め、共に幸福になるために、各自にさまざまな才能や能力、とくに愛する心を神から与えられています。だから「めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払い」（フィリピ2・4）たいですね。

2. さまざまな行事や出来事の中で 心を広く鷹揚に

昨年12月8日、教皇様は、教皇ピオ9世が聖ヨセフを「カトリック教会の保護者」と宣言されてから150年になるのを記念して、使徒的書簡『父の心で』（カトリック中央協議会、2021年2月）を発表され、20年12月8日～21年12月8日を「ヨセフ年」とすると宣言されました。また昨年12月27日には、21年3月19日～22年6月26日を「『愛のよろこび』家庭年」とすると発表され、さらに今年1月31日に、今年から7月第4日曜日を「世界祖父母と高齢者の日」とすると発表されました。教皇様は、これから1年余りの間、コロナ禍でつらい思いをしているわたしたちが、とくに家族のことを思い大切にするように、と呼び掛けておられます。

また教皇様は6年前に回勅『ラウダート・シ』を発表して、地球環境を守るよう訴え、昨年10月3日には回勅『きょうだいの皆さん』を発表して、人類は皆兄弟姉妹ですから互いに愛し合うように、と諭されました。さらに、イスラムの指導者と交わした共同宣言書を元に、国連は今年から2月4日を「国際人類きょうだい愛の日」と定めました。この地球は人類共通の家であるという考えと、人類は皆人間の尊厳を平等に持つ者として兄弟姉妹であるという考え方が、これからの時代を生かす精神となってほしいものです。

実際、神の慈しみはこの地に満ちており（詩編33・5参照）、神は独り子イエスを長子としてこの世界に送り（ヘブライ1・6参照）、イエスはすべての点でわたしたちと同じようになり（ヘブライ2・17参照）、わたしたちを兄弟姉妹と呼んでくださいました（マタイ23・8、ヘブライ2・11参照）。しかも父である神は、わたしたちを御子の姿に似たものとしてくださいました（ローマ8・29参照）。

主キリストは世の終わりまでわたしたちと共におられ（マタイ28・20参照）、どこにいても守り、足が石に当たらないようにしてくださいます（詩編91・11－12参照）。そして〝恐れるな〟〝勇気を出しなさい〟と言っておられます。

今年は、長崎開港450周年、教区シノドス（代表者会議）6周年でもありますが、地球環境全体と人類全体を見るという大きな視野をわたしたちが共有するなら、一人ひとりと家族、修道会や教会の共同体を大切にするときも、もっと広い鷹揚な心を持つことができるのではないでしょうか。またそうすべきです。

教皇さまの意向

・世界　独裁体制、権威主義体制、さらには危機にある民主主義体制のもとで、基本的権利のために戦う人々のために祈ろう
・日本　あらゆる差別が撤廃され、人権が尊重される社会を築くことができるように

3・11 東日本大震災から10年

追悼――各地で祈りささげる

2011年3月11日、三陸沖を震源とする国内観測史上最大のマグニチュード9・0の地震が発生した。地震と大津波により多くの人々が犠牲となった東日本大震災から今年で10年。未曾有の大災害を経験する中、日本のカトリック教会も協力体制を整え、被災地の人々に寄り添い、必要な支援を届けることを目指して活動を続けてきた。

3月11日に仙台教区で予定されていた日本司教団による「復興支援活動10周年 追悼と感謝のミサ」は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、延期。司教団はこの日、メッセージ「連帯のきずなを希望の光に」を発表した（中央協議会公式サイトで読むことができる）。3月11日（木）地震発生時刻の午後2時46分、全国各地、あらゆる場所で人々が祈りをささげた。

写真は現在の大槌町（岩手県）。かつて長崎教会管区の被災地支援の活動拠点「大槌ベース」があり、多くのボランティアが訪れた。

人事異動・任命

（　）内は前任地など

▼教区〔4月18日着任〕
橋本　勲師　サバティカル、カトリックセンター（病気療養）
下口　勲師　島原主任（大浦主任）
大山　繁師　平戸口主任（黒島主任）
山田　聡師　病気療養、福岡カトリック神学院（島原主任）
鍋内正志師　深堀主任（平戸口主任）
大水文隆師　大浦主任（カトリック中央協議会事務局長）
辻原達也師　大山主任代行・小ヶ倉主任兼務
山添克明師　黒島主任（曽根主任）
中尾直通師　研究、福岡カトリック神学院（深堀主任）
川端志範師　大崎主任（土井ノ浦主任）
キム・ボム師　天神主任（福江助任）
宮原大地師　土井ノ浦主任（浦上助任）
青田憲司師　曽根主任（滑石助任）
鼈甲屋賢治師　浦上助任（新司祭）
ナム・シジン師　滑石助任（新司祭）
西田祐尚師　福江助任（新司祭）

▼派遣〔4月18日着任〕
岩下和樹師　福岡・茶山主任（大崎主任）

▼引退終身助祭〔3月7日付〕
谷口広海師　引退・長崎教区へ移籍（高松教区）

（2面に続く）

使徒ヨハネ 谷口広海 引退終身助祭

高松教区から長崎教区へ

高松教区で10年以上にわたり働いてきた使徒ヨハネ谷口広海師が、今年3月7日付をもって長崎教区に引退終身助祭として移籍することとなった。

谷口助祭は1948年12月13日生まれ、佐世保市・三浦町教会出身。長崎在住の頃も信徒として多方面で奉仕していた。高松教区司教を務めていた溝部脩司教の呼び掛けにより2008年から高松教区に移り、同教区のために働いた。10年6月6日、同教区司教座聖堂（桜町教会）で終身助祭に叙階される。子ども9人のうち2人は修道女。このほど、家族の健康上の理由により長崎教区に移籍することとなった。引退届はすでに高松教区において受理されている。

「終身助祭」は「（司祭叙階前の）過渡的助祭」とは異なるもので、さらには未婚者と妻帯している者とがある（新教会法第1031条第2項）。特に後者の「妻帯している終身助祭」は長崎教区ではなじみがないが、他教区ではほとんどが後者であり固有の役務を果たしている。谷口助祭の今回の移籍により、終身助祭としては長崎教区では2009年に逝去した友永忠次助祭に続いて二人目となる。

ほしかげ

「わたしたちの生活は…忘れられがちな人々によって織りなされ、支えられています。…医師、看護師、スーパーマーケットの従業員、清掃員、介護従事者、配達員、治安当局、ボランティア、司祭、修道者、そして他の多くの、自分の力だけで自分を救うことはできないと分かっている人々です。…どれほど多くの人が、毎日辛抱し、希望を奮い立たせ、パニックではなく共同責任の種を蒔くよう心掛けていることでしょう。どれほど多くの父親、母親、祖父、祖母、教師らが、習慣を変え、前向きになり、祈りを重ねるといった、何気ない日常の姿を通して、危機に向き合ってそれを乗り切る方法を子どもたちに示していることでしょう。どれほど多くの人が祈り、犠牲をささげ、すべての人のために執り成していることでしょう」（教皇フランシスコ『パンデミック後の選択』から）▲コロナ禍に、新しい生活様式を実践するわたしたちは、教会活動をこれまで通りに行うことは困難である。司祭もまた「自分の力だけで自分を救うことはできないと分かっている人々」の一人だと教皇フランシスコは指摘する。これまでの習慣を変え、前向きになり、祈りを重ねるという日常を通して、「よいわざを始めてくださった神ご自身が、それを完成してくださいますように」（叙階式　受階者の約束・結びの言葉）と祈り、神への信頼を新たにしていきたい。（@）

「…しかし 長崎の教会は死ぬことはありませんでした」　ヨハネ・パウロ2世（1981年）

わたしたちは何を目指すのか④

教会の中の私、教会の外の私

西町教会信徒・教区平和推進委員会事務局長　鳥巣 雄樹

まず、自己紹介です。私は教会の中では一般信徒であり、西町教会の広報としてニュース発行にとりくむ一方、教区の福音化推進部平和推進委員会の一員として、平和旬間や教皇平和メッセージ講演会などの企画に関わっています。また、日本カトリック正義と平和協議会の委員としても活動しています。

一方、教会の外では一公務員であるとともに、県内の10の労働組合が加盟する「長崎県労働組合総連合（長崎県労連）」の非専従事務局長として、県内の労働者・県民の生活と権利を守り、平和と民主主義を発展させるための活動に関わっています。

自分はなぜ平和のために活動しているのか？

今回の記事の依頼をいただいた際に、教区広報から私への依頼内容は三つありました。一つ目は、「あなたはさまざまな場で平和のために働いているが、どのような思い、願いを持って活動しているのか」です。そこで、私の父のこと、そして自分の生い立ちについて振り返ってみました。

私の父は被爆者です。爆心地から2㎞の場所で、5歳のときに被爆しました。あの「クレヨンしんちゃん」や「チコちゃん」と同い年の時に、原子雲の下で地上の地獄を経験したのでした。しかし父は、自分が被爆者であることを周囲に明かしてくれてはいたものの、被爆や青少年時代の出来事をあまり家族に語ることなく65歳で亡くなったので、父が原爆や戦争について本当のところどのような（辛い）思いでいたのか分からないままです。今となっては話を聞きたくても聞けません。

そんな父の子である私（被爆二世）が「原爆」というものに最初に触れた記憶は、小学校低学年のときです。教室の片隅に一冊の分厚い本が置いてあり、休み時間に自由に読むことができました。開いてみると、壊れた建物や黒焦げ死体の写真が多く載っていて、最初は興味本位から、食い入るように写真を見たのを覚えています。また、原爆の日の登校日をはじめとする平和学習は、長崎の他の子どもたちと同様に、公教育の中で学んできました。

中学生になると、原爆以外のテーマについても平和学習の機会があり、戦争の残虐さや非人道性について学びました。沖縄戦の集団自決のエピソードを学んだ際には、内容のあまりの辛さに、記事を読み聞かせていた担任の先生自身が感極まり、続きを読めなくなって授業が中断したというハプニングを今でも覚えています。

社会人になり、1991年に公務員として父と同じ役所に就職しました。間もなく、先輩の誘いもあって労働組合運動に関わるようになりましたが、就職間もない頃は、職場には父も含め被爆者たちが現役労働者として普通に働いていて、各々が身をもって「戦争の惨禍」を経験していたわけなので、職場の労働組合が核兵器廃絶や平和を求める方針を掲げて活動することは空気のように当たり前のことでした。そのような状況もあってか、私の労働運動への関わりは平和運動の実践から入っていきました。夏になると、汗をかきながら平和行進で街を歩き、広島・長崎で毎年開催される原水爆禁止世界大会にも毎回参加し、途中からは裏方にも関わるようになり、被爆遺構ガイドも経験しました。

まとめると、今私が平和のための活動に関わっているのは、自分から何か強い思いや決意をもって始めたというよりは、生活の場面の中でさりげなく問い掛けがあって、その都度の応答の積み重ねで今がある、別な言い方をすれば、ある意味、神様からの召命だったということかもしれません。

しかしながら、これまでの人生を通じて、家族、身近なところ、職場や労働組合活動などで多くの被爆者の方々に出会い、その都度「二度と自分たちのような被爆者をつくってはならない。直ちに核兵器廃絶を！」との強い思いに触れてきましたので、先日発効した核兵器禁止条約には感慨深いものがありますし、微力だけれども無力ではない自分も、核兵器の廃絶に向かって引き続き活動していきたいと思っています。

教皇様の長崎でのことばについて

フランシスコ教皇様が来崎されてから1年がたちました。教区広報から私への二つ目と三つ目の依頼内容は、来崎された教皇様のメッセージに対する感想、そして、信徒として日々感じていることについてです。

長崎での教皇様の一連のメッセージでいま最も重要なのは、やはり、爆心地公園での「核兵器についてのメッセージ」でしょう。長崎市の田上市長が平和宣言で引用し、教皇様自身も、来崎の後に発出された回勅「フラテッリ・トゥッティ」や2020年1月1日の世界平和の日教皇メッセージに引用されるほどに、大切なメッセージです。

しかしここではあえて、ビッグNスタジアムでのミサ説教に注目してみたいと思います。

来崎当日は、王であるキリストの祭日でした。教皇様は、イエス様と共に十字架につけられた犯罪人のことばに注目し、同時に、「人間が手にできる壊滅的な力を経験した数少ない」地であり、かつ「無数の殉教者、彼らがそのいのちをもって勇猛にあかししてきた」長崎のことにも思いを寄せて語られました。

はっとさせられたのは、「この世には永遠の都はないといって、来る都を探し求めているつもりで地上での務めをないがしろにし、注意を怠る人」への警告の部分でした。この部分を改めて読んだとき、自分自身と長崎教区の弱点をチクリと刺されたような感覚を覚えました。

この部分の注釈には、「第二バチカン公会議『現代世界憲章』43参照」とあります。そこで、現代世界憲章の該当箇所を読み進めると、次のように書いてある箇所が目に留まりました。

いま、思っていること

「公会議は、天上と地上との二つの国の市民であるキリスト信者が、福音の精神に導かれつつ地上の義務を心して忠実に果たすように勧告する。（中略）自分の現世での義務を怠るキリスト信者は、隣人、さらには神ご自身に対する自分の義務を怠るものであり、永遠の救いを危うくする。むしろキリスト信者は、職人として働いたキリストの模範に倣い、自分のあらゆる地上的活動を行えることを喜ぶべきである。こうして彼らは、すべての価値が神の栄光に向けて最高に調整された統合となるよう、人間的・家庭的・職業的・学問的・技術的努力を宗教的価値と結びつけるのである。」

正直、この箇所を読んでいて、自分のことがちょっと心配になりました。「日々の忙しさを口実に手を緩めてはいけない」と、つい最近もある先輩から指摘されたばかりの私です。（決して、寝ずに死ぬほど働けということではありません。念のため。）一信徒として、この現代世界憲章の指摘をしっかりと受け止められるようになりたいと思います。

ところで教会は、特にレオ13世教皇様の頃から、産業革命などに端を発した歴史的な変革の中で、社会問題に対して教会の立場を明確にし、2つの世界大戦、核兵器、武力衝突、格差と貧困の拡大そして環境問題など現代の諸問題に対してさまざまなメッセージを出してきました。それらの諸文書が整理されて、「社会教説」といわれる教会の教えの体系が整ってきています。これらの教えに沿って、長崎教区が社会の諸問題に対してどのように「出向いていくか」を考え、行動することはいま重要です。

私たちは今、教区シノドスの提言を活動指針として実践する最中にありますが、社会教説の教えを教区の問題解決のためにどのように活かし、個々の課題に落とし込んでいくか、シノドス提言には具体的な提起が少ないと私には感じられます。

「排除されるとは『搾取されること』ではなく、廃棄物、『余分なもの』とされることなのです」（使徒的勧告『福音の喜び』53）と教皇様が指摘するほどに排他的になり、職場や社会にハラスメントがはびこり、心を病んでしまう人や自殺者が続出している今の（経済）社会のもとで、「自らが貧しい者となり、貧しい人々や除け者にされた人々につねに寄り添ったキリストへの信仰から、社会においてほとんど見捨てられている人々の全人的発展への気掛かりが生まれます」（同勧告186）と指摘される教皇様のことばに対する私たちの応答を持たなければならないと思います。

ところで、私が組合のスタッフとして身を置くことになったとき、教会が「労働組合」という組織に対してどのように考えているのか、気になって公文書を調べたことがあります。

現代世界憲章には、「報復の危険なしに組合活動に自由に参加する権利」などは「基本的人権の中に数えられなければならない」と記され、また教会の社会教説綱要でも、「教会はその教導権において、労働組合によって果たされる根本的な役割を認め」るとした上で、労働の尊厳、働く権利、労働者の権利などについて多くのページを割いて述べています。これらの文書は、私が安心して組合活動に没頭するよりどころとなっています。

イエス様は、地上で生活した年月の大部分を大工としての労働にささげられました。そのことをときに黙想しながら、私に与えられた役割を歩んでいきたいと思います。

人事異動・任命

（　）内は前任地など

▼イエズス会〔4月1日付〕
ドメニコ・ヴィタリ師　広島・幟町協力（日本二十六聖人記念館館長）
キム・ヒョンウク師　日本二十六聖人記念館館長（同副館長）

▼コンベンツアル聖フランシスコ修道会〔3月17日付〕
キム・ヒーイル師　東長崎主任（聖母の騎士修道院）

▼神言修道会〔4月1日付〕
ジョナサン・レイ・ビリアコルタ師　聖ルドヴィコ修院（新司祭）
荒田啓示師　東京・吉祥寺（聖ルドヴィコ修院）

▼サレジオ修道会〔4月1日付〕
濵﨑　敦師　愛野主任（宮崎・日向学院）
前田崇史師　大分・別府（愛野主任）

新駐日教皇大使の任命について

教皇フランシスコは3月11日付で新駐日教皇大使として、イタリア出身のレオ・ボッカルディ大司教を任命したことを発表した。

同大司教は1953年4月15日イタリアのサンマルティノ・イン・ペンシリス生まれ。79年6月24日司祭叙階。神学博士。87年から教皇庁の外交活動を開始。ウガンダ、パプアニューギニア、ベルギーの各教皇庁大使館に勤務。教皇庁国務省外務局で働き、国連の国際原子力機関（IAEA）や欧州安保協力機構（OSCE）、包括的核実験禁止条約準備委員会（CTBTO）への聖座代表、2001年3月からはウィーンの国連工業開発機関（UNIDO）と国連事務所での聖座常任オブザーバーを務めた。07～13年まで駐スーダン・エリトリア教皇大使を務め、13年7月駐イラン教皇大使に任命。イタリア語、フランス語、英語、スペイン語を話す。

発表を受け、高見三明大司教は「前任者の故ジョセフ・チェノットゥ大司教様の永遠の安息とともに、新大使のご健康とご活躍のために祈りましょう」と呼び掛けている。

長崎教区平和推進委員会
2021年教皇平和メッセージ講演会の動画を配信しています。
講師：中井 淳師（イエズス会、下関労働教育センター）

黒島教会

祈りと援助に感謝

耐震対策保存修理工事 完了

2月23日（火）12時40分から、黒島天主堂の耐震対策保存修理工事完了に伴い、株式会社安藤・間（ハザマ）の黒島天主堂作業所長、内田善久氏より説明と作業終了の報告がありました。髙見三明大司教から感謝の言葉、朝長則男佐世保市長の祝辞、西本慎也佐世保市教育長より経過報告があり、黒島天主堂の引き渡し式を行いました。

現在の黒島天主堂は、2代目の教会です。初めに1879年ペリュー神父様が、今ある教会の敷地に木造の教会を建てました。その後、マルマン神父様が、黒島の初代主任司祭として着任し、信者が増えて狭くなった教会を解体し、敷地を広めて、間口8間と奥行18間の煉瓦（れんが）造りの教会を建てました。

250年間の迫害が終わり、信仰の自由の喜び、ミサがささげられる喜びを表す教会です。ネヘミヤ8章の13～18節からヒントを得たといわれる図柄のタイルが祭壇の周りに敷き詰められています。

修理の費用は、国と県と佐世保市、それに長崎大司教区が応分の負担をし、黒島教会は、長崎大司教区に割り当てられた額の半分を負担します。また、十字架の道行の絵と額や、老朽化した教会堂備品の新調など、黒島教会が負担しなければならない費用があります。それは髙見大司教様と教区顧問会の許可を受け、長崎教区の教会、黒島の出身司祭、信徒、特に佐世保地区の教会からご寄付をいただきました。皆様のお祈りとご援助に心から感謝いたします。

内外共に見違えるほど美しくなった黒島天主堂にぜひ一度おいでください。ありがとうございました。

黒島教会　大山 繁

キリストの十字架の秘義

山内清海師による講演会

新型コロナウイルスの影響下、2月28日（日）長崎市立図書館多目的ホールを会場に、「キリストの十字架の秘義について」をテーマにした山内清海師（大司教館）による講演会が行われた。ミカエル会主催。

十字架の縦棒は御父と御子との死に至るまでの深い信頼と従順の関係、横棒は御父と御子の人類に対する無限の愛を表現しているという結論が導かれた。縦棒はわたしたち人間の神に対する愛を、横棒は、わたしたちの隣人に対する愛が示唆されている。

講演は、「キリストはなぜ、最も過酷で、悲惨な十字架上での死を受諾されたのか」という問題提起で始まり、「全人類の罪を償い、すべての人々の救いを確保するため」「われわれに模範を残すため」という2つの説明を経て、結論へと至る。

第一の説明は、「旧約のいけにえを補い、完成させるための新しいいけにえとしてキリストの新しいいけにえが必要となった」「キリストの自覚」についてという2点から、また、第二の説明は「十字架はわれわれの個人的救いのために不可欠の条件」「十字架を生きることは、キリストを生きること」「われわれも隣人の救いのために苦しまなければならない」という3点から行われた。

ミカエル会　小畑郁男

新たにカテキスタ誕生

上五島地区で6人が全課程修了

教区シノドスの公式提言を受け、以前から進められていた上五島地区カテキスタ養成講座・基礎コースは、2月21日（日）に全課程を修了した。

受講者6人で講座が始まったのは2019年度。その後、新型コロナウイルスの影響で一時休止し、状況を見ながら20年9月に再開した。月に2回のペースで行われ、回を重ねるごとに受講者同士の親交も深まっている様子だった。最後の模擬授業を終えた6人は、晴れて上五島地区長の眞浦健吾師からカテキスタ資格証書を受け取り、再会を約束して各々の教会に帰った。

昨年は長崎・佐世保・下五島の各地区で計54人が資格を取得。今回で合わせて60人のカテキスタが誕生した。

カテキスタ養成 基礎コースを終えて

桐教会　畑田 泉

自分にはできるだろうか？　そんな不安を抱いての今回の参加でしたが、一緒に学ぶ仲間に恵まれ、質問や疑問にも丁寧に答えてくださる神父様の指導のもと、実りある時間を過ごさせていただきました。

テキストだけでなく、そこから出てくる質問や、その答えにはっとさせられたり、気づかされることも多く、年齢も所属教会も違う仲間との会話の中で、経験や思いを聞き、共感したり、新しい発見があったりと、良い刺激になりました。

これから、2年間で学んだこと、経験したことを活かしながら、子どもたちに教え伝えていけるよう、励んでいきたいと思います。感謝のうちに。

希望のうちに次のステップへ

長崎カトリック神学院と福岡コレジオ 卒業式

長崎カトリック神学院の卒業式が、2月27日（土）午後5時から髙見三明大司教を迎え、神学院聖堂で行われた。

卒業したのは、岩永魁（かい）世（せい）さん（長崎・神ノ島教会）。新型コロナ感染予防のため、式は家族のみの参列となったが、2年ぶりの卒業生を一同喜びのうちに祝福した（写真）。岩永さんはあいさつの中で、神学院で6年間を通じて成長させてもらったことへの感謝と、「仲間を大切にし、互いに支え合って頑張ってほしい」と後に続く後輩たちへの励ましの言葉を述べた。

式後は、卒業生とその家族を囲んでささやかな祝宴が開かれ、在校生たちによる送る歌とそれに応える卒業生の歌も披露され、心温まるひと時を過ごして、希望のうちに次のステップへと向けて巣立っていった。4月からは福岡コレジオに進学し、大学に通いながら召命の道を歩み続ける。

また、福岡市にある福岡コレジオにおいても3月15日（月）午前11時から卒業式が行われ、長崎教区神学生の吉原祐則（ひろのり）さん（福江教会）が卒業した。

＊司祭召命の道を希望する方は、主任司祭に連絡してください。中高生の方は長崎カトリック神学院が、大学生・社会人の方は福岡コレジオが受け入れます。

建物の役割を見直す

教区施設統廃合検討チーム

今年築50年を迎えるカトリックセンターは、建物の老朽化と、また昨年新型コロナウイルスの影響で宿泊事業を閉じたことにより、これまで果たしてきた大きな役割を見直す時期となった。

そこで長崎大司教区は、所有している建物のうちカトリックセンターと大司教館、長崎カトリック神学院について、それぞれの役割に応じて機能を統廃合することが可能かどうか、今後の維持管理も含めこれらの在り方を検討するための「教区施設統廃合検討チーム」を立ち上げた。

第1回会議は3月18日（木）大司教館で行われた。メンバーとして各施設長や各地区代表司祭をはじめ信徒も加わり、専門的なオブザーバーも交えて、今後も検討が継続される。

短信

〈コロナ感染防止の対応〉

長崎教区は1月から限定的に中止していた「主日の公開ミサ」を2月14日以降再開し、県内全域の特別警戒警報が解除されるまで「主日ミサの参加義務の免除」を与えていた。特別警戒警報は2月21日までで解除されたが、教区における「免除」は3月7日まで延長され（2月19日付通達）、その後さらに復活節第4主日の4月25日まで与えられることになった（3月11日付）。

2021年度 カトリック講座・聖書講座のご案内

長崎大司教区生涯養成委員会 主催

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で講座などはすべて中止となりましたが、2021年度は、基本的な感染予防対策を取り、「日本のカトリック教会における感染症対応ガイドライン」に沿って開催することとなりました。

今年度はカトリックセンターでの受講に加え、オンラインで受講できるように準備しております。コロナを不安に思う方はもちろん、遠方にお住まいの方などに対応できると考えています。

従来から開催してまいりました『信仰養成講座』は、21年度から名称を変更し『カトリック講座』として再出発をする予定です。キリスト教の基礎的な知識を学ぶための機会として、信者の皆さんに加え、求道者・洗礼志願者、そして信者でない一般の市民の方々も含め、幅広い方々に受講していただければ幸いです。

『聖書講座』はパウロ書簡を取り扱います。コロナの時だからこそ、聖書を手に取ってゆっくり深く読み、黙想する機会にしてはいかがでしょうか。

たくさんの方のお申し込みをお待ちしております。

生涯養成委員会　谷脇 誠一郎

カトリック講座

毎月第4土曜日 午後2時～3時30分
テーマ　今を生きる
テキスト　『キリスト教入門』オリエンス宗教研究所

月日	講師	内容
5月22日	中村倫明司教	コロナ禍の中で信仰を生きる
6月26日	谷脇誠一郎師	生きることと信仰
7月24日	尾髙修一師	イエスの伝えたこと
8月28日	山口雅稔師	イエスの受難と復活
9月25日	山本一郎師	父と子と聖霊
10月23日	岩本繁幸師	キリストの教会
11月27日	山口竜太郎師	秘跡
12月18日	宮原大地師	祈り・善と悪
1月22日	牧山強美師	現代に生きるキリスト者
2月26日	Sr. 岡 立子	永遠のいのちと聖母マリア

聖書講座

オンラインでも受講可 Zoom

木曜日 午後7時～8時30分
テーマ　パウロ書簡を読む
テキスト　『聖書』

月日	講師	内容
5月6日	髙見三明大司教	パウロの書簡概論
5月20日	谷脇誠一郎師	ローマの信徒への手紙
6月3日	川原昭如師	コリントの信徒への手紙Ⅰ
6月17日		コリントの信徒への手紙Ⅱ
7月1日	山添克明師	ガラテヤの信徒への手紙
9月2日	熊谷裕司師	エフェソの信徒への手紙
9月16日	中尾直通師	フィリピの信徒への手紙
10月7日	岡 秋美師	コロサイの信徒への手紙
10月21日	岩下裕志師	テサロニケの信徒への手紙Ⅰ・Ⅱ
11月4日	野濱達也師	テモテへの手紙Ⅰ・Ⅱ テトスへの手紙・フィレモンへの手紙

◆場　所　カトリックセンター2階講堂（コロナ対策のため定員制限があります）
◆受講料　カトリック講座 6,000円（月1回 全10回）『キリスト教入門』テキスト代 税込1,980円
聖書講座 6,000円（月2回 全10回）　＊聴講も可能（1回1,000円）

◆申込先　カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会
Tel 095-841-7731　Fax 095-841-7732　✉cnsy.kouza@gmail.com
講座のお申し込みはこちらからもどうぞ→
申込期限　聖書講座 4/24㊏ カトリック講座 5/15㊏　※聴講は随時受け付けています。

〝恵の丘〟創立50周年

原爆ホームで感謝ミサ

2月26日（金）朝からの風雨も落ち着き、午後2時15分、高見三明大司教様をお迎えして原爆ホーム聖堂で「創立50周年感謝のミサ」が荘厳に行われた。

恵の丘長崎原爆ホームは昨年4月1日に創立50周年を迎えた。原爆被爆者養護施設として原爆から25年目に自らも被爆者であったシスター江角ヤスによって創設された。今も本館、別館で350名の方が生活しておられる。

三ツ山には戦時中、純心女子学園の疎開地があり、原爆の日に開墾や松脂採集の作業に来ていた。直接の被害を逃れた20名は救助に奔走。後にシスター江角はここを「恵の丘」と名付け、ホームの設立に至った。

聖堂内は密を避けて40名の参加。ホームの方々にはライブ配信によるミサで参加していただいた。コロナ禍にあり他の記念行事が中止される中、念願のミサが出来たことは大きなお恵みであった。被爆75周年の節目と重なり、利用者、職員共に新型コロナウイルスの終息と世界平和への願いを込めて多くの祈りがささげられた。

原爆ホーム 本館
施設長　堤 房代

性虐待被害者のための祈りと償いの日

2016年、教皇フランシスコは全世界の司教協議会に対し「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けることを通達され、日本の司教団は17年から四旬節第2金曜日をその日と定めている。以降、各教区では司教の呼び掛けに従い、被害者の痛み・苦しみに寄り添い、祈りと償いのうちに過ごすよう目指している。

今年の「祈りと償いの日」は3月5日だった。長崎教区では新型コロナウイルス感染防止のため集いの開催を避け、各教会においてその日のミサを、性虐待被害者のための意向でささげるよう呼び掛けられた。

日本の司教協議会は2002年（米国ボストン教区で明るみに出た聖職者による性虐待事件）以来、調査を実施し、昨年2月末日時点で16件が報告された（中央協議会ホームページで公開）。真の実態把握と再発防止が願われている。

四旬節にあたり　動画配信

現在、新型コロナウイルスの影響により、教会活動が制限されている。本来ならば四旬節中はどの教会も黙想会を実施するが、例年のようには実施できない状況が続いている。このような中、教区家庭委員会では、四旬節をよりよく過ごせるようにと「聖歌にいざなわれて40日間の小さな祈り」の動画をつくり、ユーチューブで配信した（上のQRコードから閲覧できる）。

配信は2月17日灰の水曜日の「十字架の道行」に始まり、四旬節中の主日ごとに更新。いずれの動画も美しい自然などをとらえた写真とともに、朗読、聖歌、手話通訳が流れ、10～20分間でまとめられている。家庭委員会事務局は「神父様、シスター、信徒の方、多くの皆様が協力してくださり、動画をつくることができました。ご復活祭まで更新されますので、祈りの時間をもつために利用していただけるとうれしいです」と話している。

環境問題など取り組み

2021年度 定例司教総会

2月15日から18日まで21年度定例司教総会がオンラインで開かれ、日本のカトリック教会として環境問題に取り組むためのチームを発足させることなどが決まった。

司教協議会は、18年に社会司教委員会からの提案を受け、「エコロジー問題に取り組むための検討会」を立ち上げた。その後、約2年にわたってこの会が検討してきた提案書が今回の総会に提出され、それを受けて審議を行い、日本の教会としてどのように環境問題に取り組むか、司教協議会としての方針を策定するチーム（仮称「ラウダート・シ」チーム）を発足することを決めた。チームメンバーは、高見三明大司教、ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡）、山野内倫昭司教（さいたま）、成井大介司教（新潟）を選任した。

▼浜口末男司教（大分）の逝去に伴い、後任として社会司教委員会委員長に勝谷太治司教（札幌）、常任司教委員会委員にアベイヤ司教を任命。▼中央協議会の広報の充実を図る広報担当司教に大阪教区の酒井俊弘補佐司教を任命。▼教皇の使徒的書簡による、朗読奉仕者と祭壇奉仕者の奉仕職に女性を加えることに関する「教会法」第230条第1項の改定について、提案された本文と日本における教会法施行細則の該当改定箇所の邦訳を承認。▼「受難の主日」に祝っていた「世界青年の日」を、今年から「王であるキリストの祭日」に祝うという教皇の発表を受け、日本の教会もそれに倣うことを確認。▼「聖ヨセフの連願」と「聖ヨセフへの祈り」、「災害被災者のための祈り」を司教協議会の公式な祈りとして承認した。

感謝

―寄付―

長崎大司教区
●援助マリア修道会様

―香典返し―

長崎大司教区
●子供一同様
故マリア山田美代子様
長崎カトリック神学院
●山田砂智代様（浦上）
故ドミニコ山田 保様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

みことばにふれて 179

山内 啓輔 神父
（長崎教区司祭、ローマ在住）

「あなたがたに平和があるように」

（ヨハネ20章19節、26節）

主のご復活おめでとうございます。日本では新年度が始まり、大なり小なり変化がある月だと思います。イタリアでは学校は2週間ほど休みになり、普段ならコレジオの神父様たちの多くは小教区にお手伝いに行くのですが、今年は昨年に続き新型コロナウイルスの影響で、全員コレジオで共に聖週間を過ごしています。

復活したイエス様は弟子たちにまず「あなたがたに平和があるように」と言われました。イエス様の受難に際して師を見捨て、その十字架のもとから逃げ、さらにユダヤ人たちを恐れ戸口に鍵までかけている彼らに向かって怒りでも叱責でもなく、平和があるように、といつくしみあふれる神様の姿を示されました。イエス様の言う平和への第一歩、それは赦しではないかと思います。イエス様自身が十字架上での死の間際まで、自分を迫害する人々の赦しを父に願い、自身も最後まで赦しを与えていた姿、ご自分の復活を理解せず、自分たちのことしか考えていなかった弟子たちに平和を願う姿にもそれが現れています。私たちもその姿に倣って平和を自分たちの周りに実現していかなければなりません。

そのためには私たちはまず、自分自身を赦す必要があるのではないでしょうか。誰しもが持つ、さまざまな弱さを赦すのはまず、神様、そして自分自身です。父である神様はすべての人の罪をそのひとり子イエス様の十字架の死によって贖い、赦してくださいました。それは他の誰でもない、まず「私」のためです。他人を心の底から赦すというのは本当に難しいことです。それと同じくらい、時にはそれ以上に自分自身を心の底から赦すことは難しいことです。なぜなら自分を赦すためには自分の弱さや限界と素直に向き合い、それを認めなければならないからです。トマスをはじめ、弟子たちも復活したイエス様に出会うことで自分たちの弱さや限界と向き合い、それを認め、受け入れ、それでも自分たちを赦し、愛の交わりへと招いてくださるいつくしみ深い神様を宣教していきました。

私たちもイエス様の弟子として、自身と周りの人々を赦すことによって平和を実現していくことができますように、この復活節を過ごしていきたいものです。

マリア 山田美代子さん

（山田 聡師の母）

2月16日、老衰のため逝去。98歳。

岩永家の7人兄弟の長女として1922（大正11）年に生まれる。早くして母親を亡くし、原爆では父親と妹一人を亡くす。自らも被爆するが、妹や弟の世話に追われた。妹の一人は修道者となった。結婚後、9人の子どもたちを育て、先祖からの信仰を固く守り、一人を司祭としてささげ、支え続けた。

夫と最後の妹を見送った後も、親・兄弟、子どもたちのためにいつも祈りをささげる人生を最後まで送った。

通夜は同17日に高見三明大司教の司式のもと、中村倫明補佐司教と司祭団の参列を得て営まれた。葬儀ミサは18日、子息の山田 聡師が司式し、浦上教会で行われた。

CALIS Catholic Life Service

カリス通信　4月号

幼稚園・保育園児　傷害補償制度のご紹介

カリスでは、カトリックに関係する施設として「幼稚園」、「保育園」、「認定こども園」を運営されております各施設様向けに「カトリック幼稚園・保育園児傷害補償制度」をご案内しております。

主に、園の賠償責任に対する補償と、保育中の園児の怪我に対する補償の2つを有しております。

＜賠償補償（主に3つの補償をセット）＞

①施設賠償責任保険　施設の欠陥や管理不十分による賠償責任、業務の遂行またはその結果による賠償責任を補償。

②生産物賠償責任保険　給食やおやつ等による食中毒など、園が提供したものに起因する賠償責任を補償。

③受託賠償責任保険　他人から預かった財物の損壊、紛失、盗取または詐取に起因する賠償責任を補償。

＜傷害補償＞

園の管理下（園と自宅の往復も含みます）における園児の急激かつ外来の事故による怪我を補償いたします。また熱中症（日射または熱射による身体の障害）も補償いたします。

万が一の怪我による死亡や後遺障害、入院、通院に加え、オプションで、新型コロナウイルス感染症・O157等の特定感染症による後遺障害、入院、通院の補償もご用意しております。各補償内容は、「加入タイプ」をA、B、Cの3タイプから選択いただくようになっております。

保険料は、1名あたりの掛金となっております。ご加入いただく際は、漏れがないよう園児全員加入となっております。また、教職員も追加いただくことが可能です。掛金の計算には「一定期間での在籍園児数の平均」に「加入タイプの1名あたり掛金」を乗算して園ごとの掛金を算出いたします。ご加入を検討される施設の方は、是非この機会に、カリスまでお問い合わせください。

私たちが、お守りいたします。
三條貴英　毛利玲子　杉谷英一
服部秀昭　森山信三神父（顧問）

カトリック共済システム
有限会社 カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館　TEL：03-5632-4449　FAX：03-5632-4468
連絡先 0120-77-0033　www.calis.co.jp/　19-TC03966
リスク・補償に関して何なりとお気軽にお問い合わせください

教皇フランシスコ 来日公式記録 DVD

POPE IN JAPAN 2019 すべてのいのちを守るため
～教皇フランシスコ 来日の軌跡～

2019年11月、ヨハネ・パウロ2世以来、38年ぶりに来日したローマ教皇フランシスコの4日間。その軌跡と言葉を後世に伝えるため、公式記録DVDが制作されました。

企画・制作著作：日本カトリック司教協議会／カトリック中央協議会

Disc 1：来日ドキュメンタリーほか　（全103分）
Disc 2：教皇メッセージ集　（全135分）

＊1口6千円以上の献金につき1組を献呈。
申込期間が2021年5月末まで延長されました。

郵便振替でお申し込みの場合は「通信欄」に送付先（住所、氏名、電話番号）と「DVD○組希望」とお書きください（00120－7－410103　宗教法人カトリック中央協議会献金第一口）。

詳細はカトリック中央協議会の公式サイトをご確認ください。